



不動印 RS-160DG 施工要領書

1. 概要

不動印 RS-160DG は急結剤の添加により乾式ガンでの吹付け施工に適用できます。

2. 材料の荷姿

	状 態	包装単位	包装荷姿
RS-160DG	粉体	25kg	紙袋
専用急結剤	液体	20～25kg	缶

専用急結剤の標準添加量は RS-160DG に対して重量比で 1% です。

専用急結剤の比重は約 1.5 です。

3. 配合水

清水（飲用に適したものが望ましい）を使用して下さい。

4. 吹き付け作業要領

機械装置の構成は、

コンプレッサー（100 馬力以上）

※高速ミキサー（プレミックス用、必要に応じて仕様する）

ベルトコンベアー

吹き付け機（圧力計、回転計付）

プランジャーポンプ

エアホース

マテリアルホース

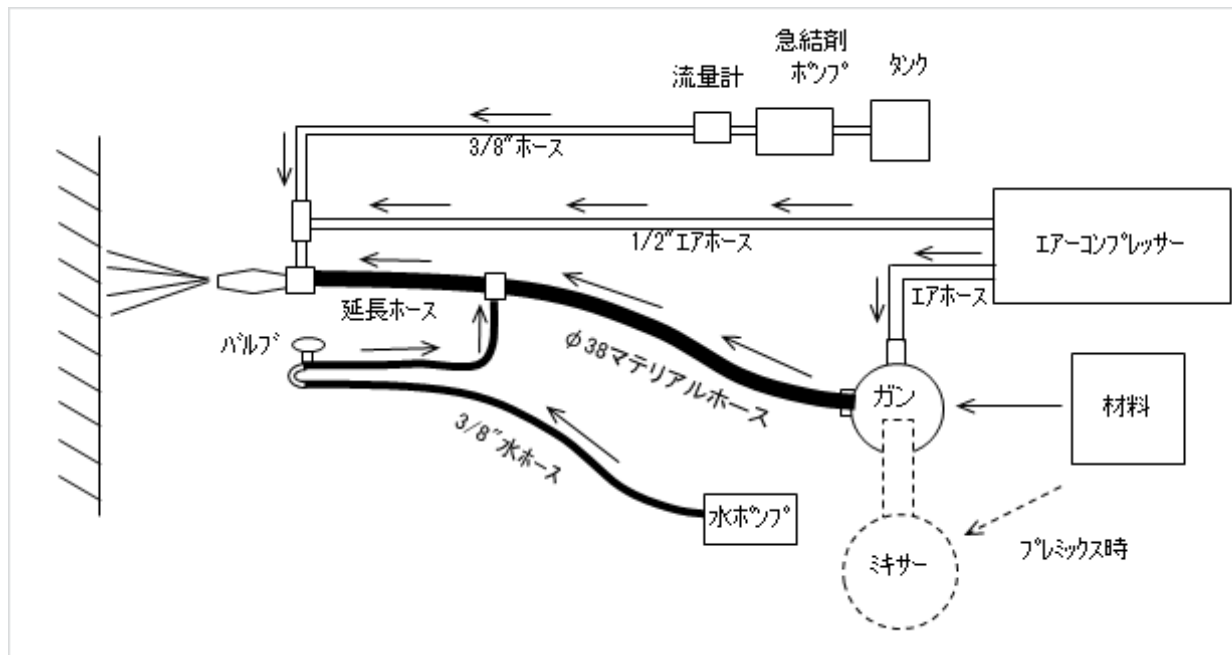
ウォーターホース

積算水量計

急結剤用ポンプ一式

ノズル一式

等よりなっています。



図－１ 吹付機械装置

【備考】 雰囲気温度が0℃以下の場合は、施工を中止するか施工箇所の温度を5℃以上にしてください。

(1) 下地処理

1日の作業範囲について、鉄皮面等の下地を清掃します。

(2) プレミックス

プレミックスをおこなう場合は1～2%の水を加えて混練してください。

【備考】 プレミックスの終わった材料は30分以内に使用してください。
ただし雰囲気温度が30℃を超える場合は20分以内に使用してください。
バッチ毎に全量を排出し、古い混練物が混ざらないようにしてください。

【注意】 粉塵を吸入した時、呼吸器への影響を生じる恐れがあり、また眼に入った場合、障害の原因となる恐れがあります。
施工時には必ず、防塵マスクとゴーグル型保護眼鏡を着用し、肌を露出しない作業服で作業を行ってください。

【注意】	眼に入った時	: 直ちに清浄な水で15分間以上洗浄して下さい。 異常がある場合は、医師の診断を受けて下さい。
	皮膚に付いた時	: 多量の水、石鹼で洗い流して下さい。 異常がある場合は、医師の診断を受けて下さい。
	飲み込んだ時	: 多量の水を飲ませ、吐かせて下さい。
	吸引した時	: 清浄な空気の場所へ移動し、鼻孔、口内等を清浄な水で洗浄して下さい。異常がある場合は、医師の診断を受けて下さい。

- (3) 材料をガン機のホッパーに投入します。
- (4) ノズルから水とエアーを出します。
- (5) 急結剤ポンプにより急結剤を出します。
※ホース内が空の状態から始めると吐出されるまで時間がかかります。
予め急結剤をホース内に満たしておくことで作業がスムーズになります。
急結剤ポンプの圧力が上昇してから急結剤が吐出されます。
- (6) ガン機から材料を送って吹付けます。
- (7) ガン圧は、常にノズルの噴射圧が一定になるように、ガン機本体に取り付けられた圧力計で調整します。0.2~0.3MPa程度を目安とし、ノズル保持者の指示に従って微調整をおこなって下さい。
- (8) ノズルは施工面と600~1200mmの距離をとり、施工面に対し垂直となるように保持し、円運動をさせながら所定の施工厚まで吹き付けます。
- (9) 材料の送り量はガン機のローター回転速度を調整して、一定の送り量になるようにします。

【備考】	材料の送り量に特に制限はありませんが、送り量が少なすぎると配合水量や急結剤量の調整が難しくなります。
------	--

- (10) 施工厚みは計測ピンや当て板を使用して整えて下さい。

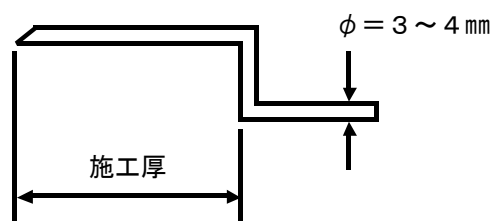
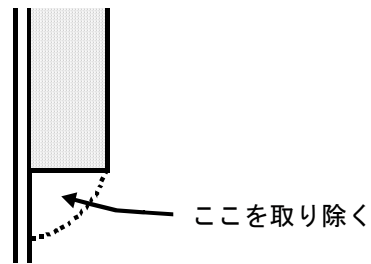


図-2 計測ピンの例

- (11) 厚み調整や施工面の仕上げは速やかにおこなって下さい。
コテで過度に表面をならすと微粉が集中して亀裂を誘発する為、表面を削る程度として下さい。

- (12) 1日の作業終了後は、必ず吹き付け面に対して垂直に切り取り、打ち継ぎ部として下さい。



- (13) ノズル、延長ホース及びウォーターリングは材料が付着して詰まりやすいため、まめに水洗して下さい。

5. 配合水量

① 配合水量の管理

配合水量の管理は以下の方法で行います。

- ・ 水ポンプ出口に取り付けた水道メーター
- ・ 水量タンク

配合水量の基準 : 7~8% (プレミックス水量も含む)
 計算方法 (水道メーターの場合)
 $\{ \text{使用水量 (リットル)} \div \text{使用材料 (kg)} \times 100 \} + \text{プレミックス (\%)}$

② 施工体含水量の管理

施工体の含水量は、水分計 (ガス圧式、赤外線等) で測定します。

含水量の基準 : 7~8% (外掛け)

【備考】

施工後 (ノズル水添加後) 20 分以内に測定します。

6. 急結剤

急結剤の添加量は、流量計の数値を読み取って 1wt%以下となるように調整します。

計算方法

$$[\text{表示流量 (リットル/min)} \times 90] \div \text{材料吐出量 (kg/hr)} \times 100 (\%)$$

【備考】

最初に急結剤を補助エアーでノズルから吐出させ、その後に材料と配合水を送って吹付けます。

7. 養生

- (1) 施工終了後は常温で24時間以上静置して下さい。湿润養生は必要ありません。
- (2) 特に冬場では雰囲気温度を5℃以上に保って下さい。

【注意】

施工体が硬化するまでは絶対に凍結させないで下さい。
硬化前に凍結すると著しい強度発現不良を招きます。

8. 加熱乾燥

所定の昇温スケジュールに従って加熱昇温して下さい。
標準的な昇温スケジュールは、次の要領で行います。

(1) 昇温速度

室温～300℃	25℃/hr 以下
300℃以上	50℃/hr 以下

(2) 温度保持

100～200℃	施工厚 10 mm毎に 1hr 以上保持
300℃	施工厚 20 mm毎に 1hr 以上保持

【備考】

温度管理は極力耐火材近傍とし、理想的には耐火材表面に熱電対を貼り付けます。

【注意】

急速に昇温した場合、水蒸気爆裂を起こすことがあり、破片の飛散による災害のおそれがあります。所定の昇温スケジュールに従って加熱昇温して下さい。また、昇温中の施工体周囲は立ち入り禁止として下さい。

9. 材料の保管

湿気の無い乾燥した場所に保管して下さい。

内部に固まりのあるものは、使用しないで下さい。

紙袋が破損しないように、注意して取り扱って下さい。

いったん開封した製品は、早く使用して下さい。

10. 廃棄

【注意】 廃棄する際は、使用前、使用后ともに、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。

東興ジオテック株式会社

広島工場 〒739-0146 東広島市八本松飯田9丁目10-1 TEL 082(428)0003